

日ト云テ、五日ノ内諷經有朔日ハ天神地祇諸神ヲ祈、二日ハ帝道ノ寶祚、武家ノ武運ヲ祈ル、三日ハ宗ノ祖師開山ノ僧ニ諷經ス、四日一宗ノ旦那、一切ノ衆生ノ爲ニ祈、五日ニ自身ヲ祈禱ス、是ニヨリテ五日迄ヲ五ヶ日ト云ハ釋氏ノ法也。

〔東都歲事記正月〕元日 今朝若水を汲む、今日より三日迄貴賤雜煮餅を食し、大服をのみ、屠蘇酒をす、む。屋中年徳棚を設く、今日より六日迄を松の内といふ。

〔日次紀事正月〕元日 御慶

新年良賀相遇先稱御慶互謂少成是歲初之祝詞也

〔增山の井〕松の内世春なが同改年之御慶

世謡履端之慶元日に人を賀す覆新之慶是も正旦に書問答

する詞也と書言故事事にあり書言故

〔和爾雅歲時〕正月元日典曰、正月元日、玉燭寶履端于始、元正、上日、三元、元始也、元日者、歲之三始元日者、歲之始、月之始、日之始也、故曰三始、出乎鮑宣傳、三朝朝始也、同三朔正始日、正始之初、正日、正朝、正朔、元旦、正旦、七始三才四時之始、天中節、四始日之始、月之始、天臘道元首、三微人正律曆履新唐禮雞日朔占書、一日爲牛、二日爲馬、三日爲豕、四日爲穀、羊、雞、旦、青旦、初正、更始、元辰、歲朝、啓令節、首祚、歲旦。

〔書言故事大全〕正月 履端

元日賀人曰履端之慶、左文元年、先王之正時也、略註履端於始、

曆法以十一月甲子朔夜半冬至爲曆元、其日月五星皆起於牽牛初度、更無餘分、以此爲步占之端故云履端始也

覆新正旦以書啓賀人、曰謹致覆新

之慶、唐禮樂志、皇帝受群臣朝賀、曰元正首祚、景福維新、惟陛下與天同體、臣等謹上千秋萬歲壽

臣

既上萬歲之壽制答之、復新之慶與卿等同之

〔後水尾院當時年中行事上正月〕四方拜をはりて、常の御所に還御なり、常にならします方にてあし

たの物参る、ひし花平むめぼし茶など供じて、御さかづき参る、御前にて女中御とほしあり、伊與酌をつどむ、儲君御同宿の時、又は女御などあれば、御相伴也、○中略中秉燭の後御祝あり、先強供御チ